

新東名で「より早く」「より近く」 人が行き交う秦野の未来

注) IC: インターチェンジ
SA: サービスエリア

※IC、SA、橋、トンネル名は仮称です

富士山

2020年度、新東名高速道路が開通する予定です。

現在、NEXCO中日本(秦野工事事務所)において本格的に工事が施工されています。工事中はご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

名古屋方面

北中学校

SA

PR館予定地

葛葉川

工事が着々と進んでいます。

菩提・羽根地区では葛葉川橋の橋脚の設置工事が進んでいます。27基の橋脚のうち8基が完成しました。(11月現在)
2019年1月から橋桁を架ける工事を開始します。

※葛葉川橋の橋脚の設置工事の状況

SAには、新東名高速道路との出入りが可能になるETC専用のスマートICが設置されます。この整備により、交通利便性が向上し、観光資源を活用した地域活性化、災害時の支援体制の強化など様々な効果が期待されています。

整備効果 1 混雑を回避した高速道路とのアクセス



整備効果 2 観光を軸とした地域活性化

丹沢大山国定公園 丹沢表尾根(年84万人) 平成29年度

県立秦野戸川公園(年67万人) 平成29年度

工事進捗情報

羽根トンネルは上下線とも貫通しました。現在内部の工事を進めています。

萱沼トンネル(八沢地内)の掘削を開始しました。トンネルまで仮設の橋を使い工事を進めます。

NEXCO中日本により、秦野SA建設地に事業PR館を建設中です。

新東名建設事業を、多くの方にご理解いただくことを目的とした施設で、現場見学の際などに活用されます。市の展示コーナーも設置予定です。完成は2019年1月頃です。

※完成イメージ



市の取り組み



秦野SAの整備イメージ

スマートICアクセス道路の整備

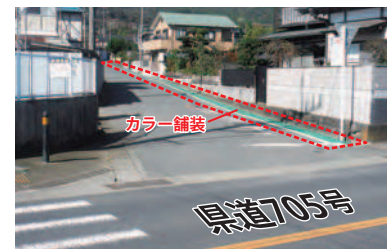


整備中のアクセス道路

上下線スマートICと地域の幹線道路である県道705号を接続する道路を整備します。用地取得は、皆様のご理解ご協力により完了しました。今後は、新東名高速道路開通に向け、2019年度にアクセス道路の整備、2020年度に県道705号の整備を進めていく予定です。

開通に向けた安全対策

スマートICの開通により、自動車交通量が増加しても歩行者の安全が確保できるように、周辺道路の安全対策を進めています。



カラー舗装による視覚的効果(今年度実施)



サービスエリアへの要望



高橋市長がNEXCO中日本東京支社長へ要望

- 秦野の地名と魅力を全国にPRするため、SAの名称決定に秦野市の意見を反映すること



秦野産木材を使用した鶴巻温泉駅舎(使用例)

- 施設へ秦野産木材の使用、及び市民と協働で行う植樹事業を行うこと

横野・戸川地区に設置されるSAとスマートICを地域の活性化につなげるため、「秦野らしさの発信や施設の整備に関する要望書」を、秦野市長が11月2日NEXCO中日本に提出しました。

そのほか秦野らしさをPRするため、秦野名水をPRする親水施設や、市内を見渡せる展望台、本市の事業者が活動できるスペースなどの協力・支援を要望しました。また、施設整備として、救急医療用ヘリポートや、市内観光地へのアクセスなどについて要望し、実現できるように取り組んでいきます。

番外編

市民の声：SAに望むこと

「秦野たばこ祭」と「市民の日」に、NEXCO中日本がブースを出店し、ご意見をいただきました。



●お店

・地場産のもの、秦野をPRできる	76件
・美味しいもの	40件
・名物のお店	12件

●デザイン・コンセプト

・一般の人が出入りできる	15件
・自然をコンセプト	7件
・名水秦野をPR	7件

●その他

・早い開通を期待しています	27件
・楽しみにしています	16件
・インターの出入口を分かりやすくしてほしい	9件

《ご意見総数 493件中代表的なもの》

厚木秦野道路(国道246号バイパス)

厚木秦野道路とは

厚木市から秦野市八沢へ至る、計画延長約29.1kmの自動車専用道路(地域高規格道路)です。

新東名高速道路と一体となって、地域の交流・連携の強化、物資の流通促進などを担う新たな東西交通軸としての役割が期待されています。

国道246号の渋滞緩和へ

国道246号は、秦野盆地を東西に貫く主要な道路であり、地域経済の発展に大きな役割を果たしている主要幹線道路です。

しかし、交差点の多さや片側1車線でもあることなどから、慢性的な渋滞が発生しています。

厚木秦野道路が完成すれば、国道246号における自動車交通の一部が転換されることにより、渋滞の緩和及び環境負荷の低減に貢献するものと期待されています。

現在の状況

現場視察(10月)



前列左から2人目が石井国土交通相、同4人が高橋市長

平成26年度に伊勢原西IC～秦野中井IC間5.2km(うち秦野市区間3.7km)が事業化されました。現在、国土交通省(横浜国道事務所)が、道路設計を行っています。

財務省への要望活動(11月)

本市では、伊勢原市・厚木市・中井町の3市1町で「国道246号バイパス建設促進協議会」を設立し、全線の早期事業化、整備促進を国などの関係機関に要望しています。



写真中央が麻生財務相、右端が高橋市長

秦野IC料金所～八沢入口交差点

新東名高速道路関連事業として国土交通省(横浜国道事務所)が工事を行っています。

現在、窪地になっている箇所盛土工事と、埋蔵文化財調査を行っています。

